

御影の図

御影とは、仏様の絵が描かれた紙のことです。寺院でのお祈りの証拠として、巡礼者の納経帳（または納経軸）に御朱印を押して書をしたためた後、職員は納経帳を返し、巡礼者にその寺院の本尊が描かれた御影を渡します。それぞれの寺院には独自の御影があり、多くの巡礼者が旅の途中で集めています。通常の御影は白黒ですが、すべての寺院でカラー版も用意されています。これらは 200 円で購入することができます。88 枚の御影を集めた人は、専用のファイル（御影帳）に入れたり、掛軸にしたり、額に入れて壁に飾ったりすることもあります。宗教的には、御影の図には仏様の霊が宿っていると考えられており、お守りとして使う人もいます。何度か 88 ヶ所の寺院を訪れたことのある熱心な巡礼者は、余った御影を同じ巡礼者に配ったり、葬儀の際に故人の棺に入れたりすることもあります。